

学 術 講 演 会

17世紀フランスにおける権力と文学

講 師: クリスチャン・ジュオー (Christian JOUHAUD)

<略歴> 1951年生まれ。現職、国立科学研究所(CNRS)研究指導官および社会科学高等研究院(EHESS, Ecole des hautes études en sciences sociales)指導教官(教授に相当)を兼任。
専門は歴史学、主にフランス17世紀、アンシャン・レジームの歴史。ロラン・バルトやミシェル・ド・セルトーなど、我が国でもよく知られた思想家、歴史家の薫陶を受ける。アンシャン・レジームを主なフィールドとしつつ、文学と歴史学の境界を探る独創的な視点と研究方法で知られる。十数年前から、やはり文学社会学と17世紀演劇研究の領域で豊富な成果を上げているパリ第三大学及びオクスフォード大学教授(兼任)アラン・ヴィアラ(主著『作家の誕生』(邦訳あり))と共同でゼミナールを主催し、現代社会に対応する方法論の探求に余念がないばかりか、若手の育成にも力を入れている。
著書は共著も含め既に数冊、『アナール ESC』誌、『クリティーク』誌等に発表する論文は年間数本で、2009年現在までに数十本にも上る。主著としては、フロンドの乱の時期の政治文書を扱った『マザリナード ― 言葉のフロンド』、文学と歴史記述の関係を問う『文学の力 ― 或る逆説の歴史』など。近著に『偉大なる世紀を救う? ― 過去の現前と伝承』(2007)、『歴史、文学、証言』(共著、2009)、『ミシェル・ド・セルトーを読む』(共編によるシンポジウム録、2009)がある。

■ 講演概要

17世紀という時代は政治的には「絶対主義」、文学史では「古典主義」の時代として描かれる。これは社会的、知的、文化的生活を構成する二つの領域において、この時期の特徴を示す二つの秩序原理であるといえる。しかしながら、これら整然とした秩序を保つかに見える場所には、常に無秩序がつきまとうのも事実である。本講演では、秩序と無秩序が共存する歴史に接近してみたい。

日 時: 2009年10月6日(火) 17:00~18:30

場 所: 関西学院大学 図書館ホール

通 訳: 嶋中 博章(京都産業大学非常勤講師)

司 会: 山上 浩嗣(言語コミュニケーション文化研究科教授)

その他: 参加費無料/事前申込不要